

インド豪雨

AMDA 調整員派遣

医療ニーズ把握し支援

雨期の豪雨で大規模な洪水被害に見舞われ、州の被災者を支援しよう



出発前にAMDAのスタッフと話す岩尾さん（左）＝JR岡山駅

うと、国際医療ボランティアA M D A（本部・岡山市北区伊福町）は25日、調整員の岩尾智子さん（34）＝同市＝を派遣した。現地の関係者と被災状況や医療ニーズを把握し、その後の支援活動につなげる。

岩尾さんは同日午前、JR岡山駅から関西空港に向けて出発。首都ニューデリーを経由し、空路でケララ州を目指す。26日に追加派遣される調整員と

もに、現地のロータリークラブやA M D Aのインド支部のスタッフと協議し、医療支援や生活物資の配布などその後の活動内容を決定する。2週間の滞在予定だが、状況に応じて延長する。

岩尾さんは岡山駅で「100年に一度の災害と言われ、ケララ州でも大半が水没したと聞いている。現地的情況を目で確かめてできることを考えたい」と話した。

AMDAによると、8月5日から2週間続いた豪雨でケララ州では20日時点で324人が死亡し、約22万

3千人が避難所生活を続けている。

（南原久人）